

ナンバリングコード B1THA-dceG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000001) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 人生選択の社会学 Sociology for Choice of Life	科目区分 主題科目	時間割 3Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dceG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 時岡 晴美	関連授業科目	社会学	
	履修推奨科目	特になし。	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 21世紀社会においては、人生の種々の場面や日々の日常生活において選択を迫られることが多く、生活者にとっての選択肢も多様に用意されている。真に自分らしい生き方を実現するために、よりよい選択をするための基礎的知識として現代社会を読み解き、生活者としてライフコースを構想する力を培うものである。			
<b>授業の目的</b> 社会の実態と関連付けながら、ワークショップによる検討を交えて実態的に考察していく。21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）、実践することができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①大学生として高等教育の意義を理解し、自己のキャリア選択について実態的にビジョンが持てる。 ②21世紀社会における課題とその解決策について探求し、社会において自己が果たすべき役割について理解し実践できる。 ③市民としての責任ある行動を実践することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> テーマ毎の小レポートで50%、最終回に課す課題レポートで50%。欠席は減点。 ワークショップにあっては特に意欲を持って積極的に取り組めた学生には相応に加点する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 3つのテーマについて、講義・グループ討議・発表とまとめ、として進める。 講義では、生活主体である学生の課題として、また、それを取り巻く現代社会の特徴などといった両者からのアプローチで取り上げていく。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：現代社会におけるライフコース</li> <li>2. 第1ブロック：これまでの自分史からみた「人生の選択」</li> <li>3. 同：グループ分け、アイスブレイクとグループ討議</li> <li>4. 第2ブロック：生活に必要とされる倫理的課題</li> <li>5. 同：グループ討議と課題整理</li> <li>6. 第3ブロック：ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて</li> <li>7. 同：グループ討議と課題整理</li> <li>8. まとめ：全体を通しての課題整理とその対策</li> </ol>			
3ブロックそれぞれにグループ討議を課しているのので、講義をふまえてテーマ内容について検討・考察するという自学自習が必要である。テーマごとにワークシートに沿って準備学習等を行うことで活発なグループ討議が可能になり、それによって学ぶ内容が深められたり実感を持てるなど充実した成果が得られる。逆に、準備不足でグループ討議に参加できないなどのケースがあれば、所属するグループ全員の学習効果が下がることもあるため、しっかり準備することが求められる。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない。 必要な回に提示する。			
オフィスアワー 金曜日5時限目から19時まで 研究室の場所は、幸町北キャンパス8号館5階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 講義を受講し、グループ討議に参加、これらをふまえてレポートを作成、という形で進めていくので、グループ討議に参加してしっかり議論することが求められる。 さらに、これらをふまえて自己の問題としてレポートを作成することになるので、各テーマに主体的に取り組んでいくことが必要である。			

ナンバリングコード B1THA-dabG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000002) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 想像力の教室 Reflections on Imagination	科目区分 主題科目	時間割 1Q金1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dabG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 佐藤 慶太	関連授業科目 履修推奨科目	哲学A, 哲学B, 倫理学C	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 過去や未来の世界、他者の痛み、ユートピア、ファンタジー…。人間は想像力によって様々なものを思い描きます。人間はこの能力を通じて、社会を改善したり、他者と豊かな人間関係を作り上げたりすることができます。一方で想像力の過剰／暴走が、自分や他者を傷つけることもありえます。このような二面性をもつ「想像力」にどのように向き合っていけばよいのでしょうか。この授業では「想像力」にそなわる可能性を哲学的に考察します。			
<b>授業の目的</b> 人間として生きるうえで「想像力」が果たす役割を哲学的に考察することを通じて（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応）、そこで生じる諸問題について、自分の主張を論証できるようになる。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会において自分が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。 2. 「想像力」に関する哲学的な問題を自分自身で見つけ出すことができる。 3. 「想像力」に関する哲学的な問題について自分の意見を述べ、それを根拠づけることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業での課題への取組 (40%) と、レポート (60%) によって評価する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション - 「想像力」を養うことの意義 第2週 他者と想像力①—メディアと想像力 第3週 他者と想像力②—フィクションと想像力 第4週 他者と想像力③—フィクションと想像力 第5週 社会と想像力①—「市民としての責任感と倫理観」と想像力 第6週 社会と想像力②— 社会のルールと文化的多様性 第7週 未来を想像することの意義 第8週 まとめ <b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義とワークの時間によって構成されます。講義の時間では、担当教員が想像力についての哲学者の考えや関連する現代の問題について解説します。ワークの時間では、教員が提示した問題について、グループでのディスカッションやミニレポートに取り組んでもらいます。 <b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 概ね、次回で扱うテーマについての下調べと、グループディスカッションのテーマについてあらかじめ考えてくることが求められます。授業中に指示、アドバイスをしますので、それに従ってください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書：授業中にプリントを配布します。参考書：授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 火曜日12:00～14:00 佐藤慶太研究室（教育学部5号館5F）			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・グループワークがありますので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード B1THA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000003) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career キャンパスライフ入門 Campus Life for Beginners	科目区分 主題科目	時間割 1Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dbxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 西本 佳代	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 一年生の皆さんは、どのようなキャンパスライフを送りたいと思っていますか。この授業では、大学の歴史、一市民としての社会とのかかわり方、就職活動に必要なもの等のキャンパスライフを送るにあたっての基礎的な知識を学びながら、社会で働くようになる4年後（あるいは6年後）に向けて、どのようなキャンパスライフを送ればよいのか考えます。			
<b>授業の目的</b> 大学の歴史、就職活動に関する情報など、大学一年生が知っておくべき基礎的な知識を身につけると共に、社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深めることができる（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①大学の歴史、就職活動に関する情報など、大学一年生が知っておくべき基礎的な知識を身につけることができる。 ②社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深めることができる。 ③グループワークの中で他者とのコミュニケーションをはかりながら、自分の意見を表現することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業態度30%、プレゼンテーション30%、レポート40%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション 第2週 大学の歴史 第3週 大学で何を学ぶのか 第4週 市民としての責任感と倫理観① ー身近な犯罪ー 第5週 市民としての責任感と倫理観② ー人間関係ー 第6週 就職活動に必要なもの 第7週 プレゼンテーション：4年後（あるいは6年後）に向けて 第8週 まとめ（45分授業）			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業では適宜グループワークを行います。また、パワーポイントによるプレゼンテーション、それをふまえた上でのレポートが課されます。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～6週 プレゼンテーション「4年後（あるいは6年後）に向けて」のために準備する。 第7、8週 プレゼンテーションをふまえてレポートを作成する。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 水曜日第2講時（10:30～12:00）。5号館4階西本研究室。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・15分以上の遅刻は欠席として扱います。 ・第7週のプレゼンテーション未報告者・レポート課題未提出者は評価の対象としません（公欠等の特別な事情を除く）。 ・グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。			

ナンバリングコード B1THA-dacG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000004) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 自己開発へのチャレンジ A Challenge to Self-Development A	科目区分 主題科目	時間割 1Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dacG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 清國 祐二, 長尾 敦史, 神田 亮	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 学問の扉を本格的に開いた学生が、既存の価値体系にチャレンジできるよう、過去の自分や社会と向き合い、解釈できる時間を設ける。学生にとってアイデンティティ形成の一助となることを目指している。さらに、公共を取り巻く状況が様変わりする中で、学生自身が公共の担い手としての自覚をもてるよう導く。それは正に市民としての責任感や倫理観を確かめ合うことを意味するのである。			
<b>授業の目的</b> 本授業の目的は、①学生が自立へ向けて自己形成することができるよう、②実践的な手法を用いることによって自らの学習課題を自覚し、③仲間の力を借りることで深い理解に到達することにある。ここでいう自己開発とは、公共という文脈の中で市民的責任を認識し（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）、その上で自分の目標をどう達成するか、新しい自分へのチャレンジを指している。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①人生とキャリアの一体的な理解ができる。 ②学生それぞれが今後4年間の見通しを明らかにすることができる。 ③市民としての責任感や倫理観について、理解から行動へとつなぐことができる。 ④責任ある社会人としての第一歩が踏み出せる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業の参加姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末に課したレポートの評価をそれに加味して、総合的に評価を行う。(各回レポート30%、グループワーク30%、最終レポート40%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業の展開は、前半にテーマの論点と結びつく内容(知識と理解)を提示する。質疑応答を行った後に、グループワークの課題を与え、それについての討議に入る。討議の成果をいくつかのグループが報告し、講師が授業のまとめを行う。最後に短いレポートを書く。2回連続で設定しているテーマについては、1回目の問題提起を踏まえた上で2回目に実施するグループワークにつないでいく。各回のテーマに関する資料はその都度提示する。 第1回 学校と社会を考える①(学校の社会的意義・役割・可能性・限界を考える) 第2回 学校と社会を考える②(学生自身の体験を基礎にグループワーク) 第3回 個性を考える①(人の発達過程を学び、青年期特有の課題を考える) 第4回 個性を考える②(青年期の活かし方を語るグループワーク) 第5回 社会で生きること①(市民としての責任感と倫理観を学ぶ) 第6回 社会で生きること②(責任ある市民を語るグループワーク) 第7回 公共を考える①(「ボランティア」から公共を考える) 第8回 公共を考える②(大学生と社会の関係性を考えるグループワーク)			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しないが、授業中に参考資料等の紹介をする。			
<b>オフィスアワー</b> 授業期間中、月曜日12:00-13:00をオフィスアワーとする。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> グループワーク中心の授業形態のため、教室のキャパシティから受講者数は90名以内とする。			

ナンバリングコード B1THA-dacG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000005) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 自己開発へのチャレンジ B Challenge to Self-Development B	科目区分 主題科目	時間割 2Q木1	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dacG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 清國 祐二, 長尾 敦史, 神田 亮	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> 学問の扉を本格的に開いた学生が、既存の価値体系にチャレンジできるよう、過去の自分や社会と向き合い、解釈できる時間を設ける。学生にとってアイデンティティ形成の一助となることを目指している。さらに、公共を取り巻く状況が様変わりする中で、学生自身が公共の担い手としての自覚をもてるよう導く。それは正に市民としての責任感や倫理観を確かめ合うことを意味するのである。			
<b>授業の目的</b> 本授業の目的は、①学生が自立へ向けて自己形成することができるよう、②実践的な手法を用いることによって自らの学習課題を自覚し、③仲間の力を借りることで深い理解に到達することにある。ここでいう自己開発とは、公共という文脈の中で市民的責任を認識し（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）、その上で自分の目標をどう達成するか、新しい自分へのチャレンジを指している。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①人生とキャリアの一体的な理解ができる。 ②学生それぞれが今後4年間の見通しを明らかにすることができる。 ③市民としての責任感や倫理観について、理解から行動へとつなぐことができる。 ④責任ある社会人としての第一歩が踏み出せる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業の参加姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末に課したレポートの評価をそれに加味して、総合的に評価を行う。(各回レポート30%、グループワーク30%、最終レポート40%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> 授業の形式は講義スタイルとする。社会的に重要だと思われるトピックを取り上げ、前半の授業(奇数回)に基礎的な内容について解説を中心に提示する。それをもとにミニレポートを書かせ、それを題材にしながら後半の授業(偶数週)でさらに踏み込んだ議論を展開する。 第1回 発達と遊びを考える①(「生涯発達」における「遊び」の意味について取り上げる) 第2回 発達と遊びを考える②(「冒険遊び場」を中心に、海外や日本で取り上げられている「遊び」を再考する) 第3回 消費者市民社会を考える①(「消費者教育」の基本理念や概念、それを推進するための法律等について解説する) 第4回 消費者市民社会を考える②(「成年年齢の引き下げ」や「エシカル消費」等を取り上げ、具体的な取組について解説する) 第5回 生涯学習社会を考える①(「生涯学習」の基本理念や概念、それを推進するための法律等について解説する) 第6回 生涯学習社会を考える②(「リカレント教育」や「社会人の学び直し」、「社会教育」等を取り上げ、具体的な教育政策について解説する) 第7回 人生とキャリアを考える①(「キャリアとは何か」についてミニレポートを書く。そのレポートをもとに学生とのインタラクティブな授業を行う) 第8回 人生とキャリアを考える②(これまでの授業の振り返りから改めて「人生」や「キャリア」について深く理解する)			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しないが、授業中に参考資料等の紹介をする。			
<b>オフィスアワー</b> 授業期間中、月曜日12:00-13:00をオフィスアワーとする。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 講義中心の授業形態ではあるが、学生との対話も随時行いながら、インタラクティブな授業とする。			

ナンバリングコード B1THA-daxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000006) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 多様な人々と「仕事」をしていくための基礎を学ぶ To learn the basics of working with a variety of people	科目区分 主題科目	時間割 1Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 daxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 葛城 浩一	関連授業科目	なし	
	履修推奨科目	なし	
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業でいう「仕事」とは、職業としての仕事のことで必ずしもなく、「何かを作り出す、または、成し遂げるための行動」のことを意味しています。年齢や立場、価値観等の異なる多様な人々と「仕事」をしていくための基礎を学んでおくことは、有意義な学生生活を送る上でも非常に重要です。この授業では、「社会人基礎力」(経済産業省)の「チームで働く力」を手がかりに、その基礎についてグループワークを交えながら体験的に学びます。			
<b>授業の目的</b> 多様な人々と「仕事」をしていくために、「チームで働く力」の各能力要素についての基礎的な理解を得るとともに(特に「規律性」は、共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に強く対応)、それらと今後の学生生活とを関連づけることができるようになる。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 「チームで働く力」の各能力要素について、重要だと感じたこと、気づいたこと等を他者にわかるように表現することができる。 2. 「チームで働く力」の各能力要素についての学びをふまえて、今後の学生生活の過ごし方について具体的に表現することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート 60% (到達目標1に対応) 最終レポート 40% (到達目標2に対応)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業の方法】</b> 「チームで働く力」の各能力要素について、グループワークを交えながら体験的に学んでいきます。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 「仕事」とは何か？ 第2回 「発信力」を学ぶ 第3回 「傾聴力」を学ぶ 第4回 「規律性」(「市民としての責任感と倫理観」)を学ぶ 第5回 「ストレスコントロール力」を学ぶ 第6回 「柔軟性」を学ぶ 第7回 「状況把握力」を学ぶ 第8回 まとめ：今後の学生生活をどう過ごしたらよいか？			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> 第2～7回 「チームで働く力」の各能力要素について、重要だと感じたこと、気づいたこと等をレポートにまとめる(A4(40字×36行)で1枚)。 第8回 これまでの授業の内容をふまえて、今後の学生生活をどう過ごしたらよいと思うか、最終レポートにまとめる。			
<b>教科書・参考書等</b> なし			
<b>オフィスアワー</b> 授業日12時半から13時半まで 研究室は教育学部キャンパス4号館3階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とする。 事前連絡なしでの欠席・遅刻があった場合には、1回につき5点の減点とする。			

ナンバリングコード B1THA-dcbG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000007) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 私たち(主権者)と公共・代表 We as the sovereign and public life, representatives	科目区分 主題科目	時間割 1Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dcbG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 三野 靖, 堤 英敬	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> この授業の前半では、今日の社会問題(男女共同参画に関する問題と地方と都市の格差の問題)についてグループで議論し、それを解決するための政策立案を行います。世の中に存在する社会問題をめぐっては様々な価値観や考え方がありますが、それらをお互いに理解し違いを認めた上で、多面的な観点から思考するとともに、合意形成の方向性を探っていきます。後半では、私たちの意思が政策の決定にどのように繋がっていくのかを、模擬投票を通じて学びます。			
<b>授業の目的</b> 国や地方自治体の活動や、地域や社会における様々な課題(「公共的課題」)が「私たち(主権者)」の生活とどう関わっているかを考え、議論するなかで、政策を決定し実施する国や自治体の代表者(「代表」)を選ぶことの意義、ひいては主権者としての意識の醸成とその責任について考えること(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)が、この授業の目的です。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 公共的課題が自らの生活とどう関わっているか、関わってくるかを理解できる。 2. 公共的課題について多様な価値観や考え方を理解し、多面的に思考することができる。 3. 公共的課題について、他者と協働的に議論することができる。 4. 公共的課題を解決するための政治のあり方、代表の意義、主権者としての責任について思考することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への参加の度合(40%)、グループ報告の内容と政策討論会での対応(20%)、公共的課題に関するレポート(35%)、模擬投票に関するレポート(5%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 基本的に、6人程度のグループによるグループ・ワークを中心として授業を進めます。前半(第2週～第6週)は、男女共同参画に関する問題もしくは地方と都市の格差の問題をテーマとして、グループでの議論を通じた政策立案を行います。第6週には各グループの報告と政策討論会を行う予定です。また、後半は模擬選挙を実施します。第7週には、実際の政党に投票する形式での模擬選挙を行い、それを受けて第8週に投票や選挙についての意見交換を行います。			
<b>【授業計画】</b> 第1週 ガイダンス、国や地方自治体の政治制度・選挙制度 第2週 現代の公共的課題：男女共同参画・地方と都市の格差 第3週 グループ討議(1)：男女共同参画・地方と都市の格差に関する論点整理 第4週 グループ討議(2)：男女共同参画・地方と都市の格差に関する現状把握 第5週 グループ討議(3)：男女共同参画・地方と都市の格差に対する政策立案 第6週 グループ報告と政策討論会 第7週 国政選挙を題材とした模擬投票 第8週 投票に関する意見交換(45分授業)			
<b>【自学自習の指示】</b> 各回の授業に際しては、事前に課題や準備事項を示しますので、必ずそれに取り組んだ上で授業に出席するようにしてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。			
<b>【参考書】</b> 総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来：有権者として求められる力を身に付けるために』2015年 ( <a href="http://www.soumu.go.jp/main_content/000492205.pdf">http://www.soumu.go.jp/main_content/000492205.pdf</a> )			
<b>オフィスアワー</b> 三野：火曜13:00～14:00(研究室：幸町南6号館5F) 堤：火曜12:30～13:30(研究室：幸町南6号館5F)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。			

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000008) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 働く喜び - 使命への学際的アプローチ Joy of Working	科目区分 主題科目	時間割 1Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 村上 弥生, 柴田 潤子, 清水 裕子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) ×1回+ 自学自習			
<b>授業の概要</b> 「働くこと」は、一般的な成人の成長・発達に伴って、必然的に行う活動であると認識されているのではないだろうか。しかし、働く過程においては、個人が社会で果たすべき役割や、市民としての責任ある行動を理解することが求められる。「働くこと」とは、単なる社会活動と異なり、社会を構成する人としての「使命」といえ、また、「喜び」をももたらすものである。「働くこと」、「働くことができる」の意味を熟考することは、新社会人となる大学生にとって意義深いことである。授業では、「働くこと」について、実学レベルから人間学レベルまでの幅広い観点から、今日的な新社会人の準備学習となるよう内容を構成した。具体的には、民俗学、看護学、法学といった分野、また実務の面から「働くこと」をとらえ、大学生のキャリア形成過程における「幸福な人生」を送るための「鍵」を手にすることができる実践的アプローチを行う。			
<b>授業の目的</b> 本授業は、大学生が社会のあらゆる場面で働く際に経験する戸惑いや不安を予測し、キャリア形成における準備性を高めることがねらいである。そのために、人が男女それぞれに古来より働くことについて、どのような取組みを行ってきたか、働く場における人間関係の調整や倫理、また社会的自己存在感を見出すことなどを熟考・討論し、「働くこと」がもたらす意義や意味を深める（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応）ことを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 「働くこと」の意義や意味を説明できる。 2. 「働くことができる」ことと生活との関連を考察し、社会的自己存在感について説明できる。 3. 個人が「働くこと」をとおして社会とかかわる際に必要な人間関係と倫理、自らの課題を説明できる。 4. 働く場を持ちつつ社会生活をおくる過程における「幸福」とは何かについて考察できる。			
成績評価の方法と基準			
授業への取組 (毎回のレポート提出) 40%+試験レポート1回 60%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<b>【授業計画】</b> 第1週【村上弥生】ガイダンス、「日本の伝統文化に見る働き方」 前半で授業全体に関するガイダンスを行うとともに、後半で第1回の授業として、日本における伝統的な働き方、性別役割分業および社会的にあるべき姿について、民俗学者柳田國男の説などをもとに考える。			
第2週【村上弥生】「身体的特性と性別を超えた働き方について」 身体的に規定される面について再認識するとともに、働く場において性別を超えて活躍できるための方策を考える。			
第3週【清水裕子】「自己存在感と幸福について」 人は家庭をもち、子どもを育てる大人になる過程で、就業定着、職業適応などが自己存在感を安定させる要因である。個人の社会活動における能力適性を考察し、幸せになるための秘訣を考える。			
第4週【清水裕子】「働くことと使命について」 働くことなく病のうちにこの世を去った大学生の遺した言葉を通して、働くことと生きることの関係について考える。			
第5週【柴田潤子】「働くこととダイバーシティ」 内閣府男女共同参画局からゲスト講師を迎え、社会における女性参画推進、ダイバーシティ実現についての現状・課題・効果について考える。			
第6週【柴田潤子】「経済社会と法」 労働関係のゲスト講師を迎え、経済社会における法、働き方に関する法について労働者の視点から幅広く考える。			
第7週 グループ討議「働く喜び」 授業で学んだことを自分の中でまとめ、総括するとともにそれをグループ討議を通じて共有する。その内容をさらにフィードバックすることによってより広く考察する。			

## 第8週 まとめと試験

### 【授業及び学習の方法】

第1週のガイダンスで担当教員の紹介と授業の概要を説明し、評価方法等についての情報を伝える。授業は各教員が基本的に2回を担当し、民俗学、看護学、法学といった分野から、また、実際に働く場で必要となる実務的な法律などをふまえて「働くこと」について講義を行う。毎回の授業後には小レポートの提出が課される。全授業の内容を学んだうえで、グループ討議およびグループ発表を行って各自の考えをまとめ、試験レポートを作成する。

### 【自学自習のためのアドバイス】

この授業は働くことに関して考察するきっかけをつかむことを目的の一つとしているので、授業で紹介された参考書を授業時間外に積極的に読むようにしてほしい。

### 教科書・参考書等

参考書：各授業中に紹介する。

オフィスアワー 全般的な点については、男女共同参画推進室コーディネーターの村上（幸町北5号館1F・男女共同参画推進室/オフィスアワー 月、火、水曜日 9：00～16：00）へ。個々の授業内容に関しては、授業中に授業担当者に相談のこと。

### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

複数教員によるオムニバス形式の授業です。全教員の授業に出席することが評価の前提となります。グループワークを含む講義中心の授業形態です。

ナンバリングコード B1THA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000009) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career ワークライフバランスとキャリアデザイン Career design and work-life barance	科目区分 主題科目	時間割 1Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dbxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 小方 朋子, 片岡 元子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) × 1回+自学自習			
<b>授業の概要</b> あなたはどんな大人になってどんな働き方を選びますか?ワークライフバランスの提唱や働き方改革など、日本人のライフスタイルが変化してきている今、自分がどのように育てられてきたのかを振り返りながら、社会人になったときに、生活と仕事と家庭のバランスをどうとるのか、人を育てるとはどのようなことなのかを考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 育てられた世代から、育てる世代へととなっていくという自覚を持ちながら、現代社会の課題に向き合えることと、将来の働く自分を想像し、社会人としての責任感と倫理観を自覚できるようになること。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 現代の働き方についての課題を理解することができる。 2. 自分はどのように育てられてきたのか、自分の育ちを客観視できる。 3. 自分の将来のライフワークバランスのビジョンを持つことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み (ミニテスト、グループワークの活動状況、発表など) 50% 試験 50%			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 社会を構成する大人になるということ 第2回 私の育てられ方を考える(1) 私の名前 第3回 私の育てられ方を考える(2) 第4回 現代の子育て事情を考える 第5回 仕事と家庭 第6回 働き方改革について 第7回 現代の労働に関する課題と自分の働き方 第8回 まとめと試験  第2回、第3回は自分の名前の由来や思い出などを題材にするので両親などからきいておくこと。 第7回、第8回はこれまでの授業の内容を踏まえて自分の将来について考えるので、疑問等やもっと知りたいことは自分で調べておく。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料はその都度配布します。			
オフィスアワー 小方 水曜1限 8号館2階 片岡 月曜4限 8号館5階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業はグループワーク中心のため受講生は100名程度とします。			

ナンバリングコード B1THA-dcbG-10-Lp1 授業科目名 (時間割コード:000010) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 身近な生活における支援を考える Support in daily life	科目区分 主題科目	時間割 3Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dcbG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lp	単位数 1	
担当教員名 大沼 泰枝	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 私たちの社会は人が支えあうことで成り立っています。普段、健康で問題なく過ごしている時は、その存在に気を留めませんが、様々支援が身近な生活の中にあります。まずは、家族や友人との関係について振り返り、身近な対人関係における支援について考えます。次に、大学内のピア・サポートについて学び、ピア・サポート活動が活発に行われるための方法について学生の視点で検討します。さらに、社会保障や自治体の支援制度について知り、それらの仕組みがどのように成り立ち、どのような時に活用できるのかについて学びます。			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は、私たちの生活が人や社会から支えられ、そして支えることで成り立っていることを理解することです。具体的には、家族間や友人間、学生間のサポート、国や自治体の支援制度等について学び、グループワークを通じて理解を深めます。「支援」をキーワードに、個人として果たすべき社会的役割と責任、配慮ある市民としての行動（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）について理解し、そこから自己や社会の未来について考えます。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 家族や友人との関係を振り返り、その経験についてグループ内で話すことができる。 2. 大学内のピア・サポート活動に関心をもち、その活性化のための方法について学生の視点でアイデアを出すことができる。 3. 国や自治体の社会保障や支援制度を自分の生活と関連付けることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の小レポート (20%) グループワーク (30%) 期末テスト (50%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
<b>【授業計画】</b>  第1週 オリエンテーション 第2週 家族関係 : 家族からの支援 第3週 子育て・介護 : 家庭内におけるケア 第4週 友人関係 : 友人関係における支援 第5週 大学内のサポート : 障害のある学生への支援 第6週 ピア・サポート : 学生間の支援 第7週 社会からの支援 : 社会保障制度、自治体の支援制度 第8週 テスト・まとめ (7回の授業で学んだことを通じて、個人として持つべき責任感と倫理観について考える)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 講義の他に適宜グループワークを取り入れます。			
<b>【自主学習のためのアドバイス】</b> グループワークの内容については、前の週の授業で説明をするため、予習をして臨んでください。			
<b>教科書・参考書等</b> 適宜資料を配布します。			
オフィスアワー 金曜日 12:00～13:00 バリアフリー支援室 (5号館1階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 家族関係や友人関係といった個人的な内容をグループワークで扱うため、互いを尊重し、配慮しあうことを必要とします。グループワーク中心の授業形態のため受講者数は100名程度とします。			

ナンバリングコード B1THA-abcG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000011) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 生活と法 ～理系・文系学生のためのリ ーガル・ベーシック 生活の中で生きている法(Life and Law)	科目区分 主題科目	時間割 1Q木5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 abcG	対象学生・特定プロ グラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 和食 俊朗 他	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+45分+自学自習			
<b>授業の概要</b> 皆さんは何気なく日々の学生生活を送っているが、法は日常の暮らしや人生に深く関わっている。自分自身や近親者が思いがけないトラブルに見舞われたり、近親者が死亡したりすると、法の重要性や法が働いていることに気づく。本講義では、研究者教員のほか弁護士や元裁判官の教員が、実務的な経験を踏まえつつ、オムニバス形式で、生活の中の基本的な法律関係や生じやすいトラブルを取り上げて、法の役割や法的な考え方を説明する。			
<b>授業の目的</b> 学生生活その他さまざまな生活の場面において果たしている法の重要性や法の働き方を学ぶ。この授業によって、市民としての生活上の自覚や責任感を学ぶ(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)ことができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
学生が、身近な生活の中においても法が働いていることやその重要性を学ぶことにより、単に学生であるということのみならず、家族の一人として、また市民として生活していることを具体例をもって認識できるようになる。それにより、社会の一員としての責任感や自覚を高めることができる。さらに、学生自身の危機管理の能力の向上につなげることができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート(最終回の授業開始前に提出)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b>			
第1回「学生生活と法」吉田明央先生担当 ※このとき冒頭10分程度で、和食から評価方法等の説明をします。 第2回「働き方のいろいろ・正規非正規とは？」木田直太郎先生担当 第3回「紛争解決と裁判の仕組み」馬淵勉先生担当 第4回「消費者被害に遭わないために」木下登裕先生担当 第5回「家族と法」和食俊朗先生担当 第6回「情報と法 個人情報保護」鹿子嶋仁先生担当 第7回「債務整理の話」籠池信宏先生担当 第8回(45分)「刑事事件とは？」和食俊朗先生担当			
なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干の変更が生ずることがある。最終回の授業開始前にレポートを提出してもらうことになっているが、そのためには、各回の講義の復習が欠かせない。これにより、関心を持った分野についてのより深いリサーチによって、充実したレポート作成が期待できる。			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし			
オフィスアワー 四国グローバルリーガルセンター(北6号館1F)の開室時間(午前9時半から午後4時半)内にセンター職員に連絡(電話087-832-1776)があれば対応。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業出席の際には、各授業終了後、毎回出席カード(授業の感想など簡単に記載する。)を提出する。			

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000012) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 地域で活躍する職業人に学ぶ ～未来へ 羽ばたけ編～ Role Models of Life in Rural Communities first period	科目区分 主題科目	時間割 1Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目 を元気に編～	主題A「地域で活躍する職業人に学ぶ」～地域	
	履修推奨科目 財育成 実践講座 I 主題C「地域理解」～実践型科目 地域貢献人	主題C「地域理解」～実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座 II	
学習時間 授業90分×7講 + 授業45分×1講 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支え、生き様を通じて周囲に活力を与えている人達がいることを紹介する。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂く。また、学生がキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義する。			
<b>授業の目的</b> 学生が、自らのキャリア（個人における生涯にわたる生き方）をデザインし、そのステージにおける「人財」になっていくことを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①自分が担う社会的責任について、自覚でき、それを表現できる。 ②キャリア・デザインに役立つ基本知識や暗黙知を理解するとともに活用できる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的なイメージを持つことができる。 ④現時点における自分の人生のイメージ（仮説）を言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢(50%)および提出レポートの内容(50%)をもとに判断する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション（香川県労働政策課長の趣旨説明含む）・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 代表的なキャリア理論 第3回 講話① 香川県教育委員会 義務教育課 課長 小柳 和代 氏 第4回 講話② 株式会社味のちぬや 管理部管理課 主任 石川 智己 氏 第5回 講話③ 高松琴平電気鉄道株式会社 代表取締役社長 真鍋 康正 氏 第6回 講話④ 株式会社ゴーフィールド 代表取締役会長 森田 桂治 氏 第7回 講話⑤ 香川県健康福祉部健康福祉総務課 医療主幹 横山 勝教 氏 第8回 講義 まとめ（提出レポートの作成要領の説明を含む）			
<b>【授業および学習の方法】</b> 香川県の協力・支援のもと、様々な業界から職業人（計5名）を講師として招聘する。なお、招聘予定講師の登壇日は、両編をまたいで調整することがある。また、人事異動や業務の都合等により登壇者が予告なく変更になる場合もある。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただくので、質問・お礼・挨拶を通して異世代とのコミュニケーション能力を高め、縁をつくる機会として活かしてほしい。			
<b>教科書・参考書等</b> 各講、レジュメを配布する。			
オフィスアワー [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 履修者は、空席があれば主題A「人生とキャリア」地域で活躍する職業人に学ぶ～地域を元気に編～の聴講可			

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000013) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を 元気に編～ Role Models of Life in Rural Communities second period	科目区分 主題科目	時間割 2Q月5	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目 ～羽ばたけ編～	主題A「地域で活躍する職業人に学ぶ」～未来	
	履修推奨科目 財育成 実践講座 I 主題C「地域理解」～実践型科目 地域貢献人	主題C「地域理解」～実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座 II	
学習時間 授業90分×7講 + 授業45分×1講 + 自学自習			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支え、生き様を通じて周囲に活力を与えている人達がいることを紹介する。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂く。また、学生がキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義する。			
<b>授業の目的</b> 学生が、自らのキャリア（個々人における生涯にわたる生き方）をデザインし、そのステージにおける「人財」になっていくことを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応）、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①自分が担う社会的責任について、自覚でき、それを表現できる。 ②キャリア・デザインに役立つ基本知識や暗黙知を理解するとともに活用できる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的なイメージを持つことができる。 ④現時点における自分の人生のイメージ（仮説）を言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢(50%)および提出レポートの内容(50%)をもとに判断する。			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション（香川県労働政策課長の趣旨説明含む）・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 代表的なキャリア理論 第3回 講話① 香川県危機管理総局危機管理課 防災指導監 松村 朝生 氏 第4回 講話② 株式会社サンテック 代表取締役社長 青木 大海 氏 第5回 講話③ 株式会社香川銀行 人事研修部 副長 金崎 勝哉 氏 第6回 講話④ 穴吹興産株式会社 グループ統括部イノベーション・CSV推進担当co-ba takamatsu コミュニティマネージャー 荒木 優衣 氏 第7回 講話⑤ 株式会社高松三越 総務部 人事・労務課長 幡多 輝明 氏 第8回 講義 まとめ（提出レポートの作成要領の説明を含む）			
<b>【授業および学習の方法】</b> 香川県の協力・支援のもと、様々な業界から職業人（計5名）を講師として招聘する。なお、招聘予定講師の登壇日は、両編をまたいで調整することがある。また、人事異動や業務の都合等により登壇者が予告なく変更になる場合もある。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただくので、質問・お礼・挨拶を通して異世代とのコミュニケーション能力を高め、縁をつくる機会として活かしてほしい。			
<b>教科書・参考書等</b> 各講、レジュメを配布する。			
オフィスアワー [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 外部講師を招聘しますので、ケアレスミスの遅刻などないように特に留意してください。			

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000014) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career キャリアデザインと職業適性イ Career Design and Vocational Aptitude	科目区分 主題科目	時間割 1Q金2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目		
	履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座 I 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座 II		
学習時間 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習			
<b>授業の概要</b> 本授業では、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考える学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行う。中心となる考え方は、時間軸によって好ましいものの意味(What)と意義(Why)の変化を認識しつつ、キャリアの棚卸しによって職業適性への考察を深めるというものである。また、限られた学生生活期間において、何を取捨選択するべきかの論理的な考え方についても演習問題を通してレクチャーする。			
<b>授業の目的</b> 自らのキャリアをデザインするための基本的な考え方を理解するとともに、そのステージごとにおける「人財」となっていくことを理解するための授業である。学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)、③自分を変えられるものと変えられないものを分けて認識できるスキルの獲得を目的にしている。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①様々な事象における事実と真実を区別することができる。 ②キャリアにおける興味・適性・能力を認識し、各々を増やしていける。 ③自らの気づきを言語化し、キャリアデザインに反映することができる。 ④他者への気づきを言語化し、肯定的フィードバックを可能とする。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行う。(各回ミニレポート30%、授業への取り組み姿勢30%、最終レポート40%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション. 市民としての責任感と倫理観 第2回 キャリア形成に必要な自己理解と相手(地域、職業、組織)理解 第3回 人はなぜ働くのか「学生の自覚と社会人の自覚」 第4回 キャリアアンカーから深める自己理解 第5回 新旧の就職活動事情とその変化への対応 第6回 なぜ若者は短期離職してしまうのか 第7回 「会社組織」「地域社会」で活躍できる人材とは 第8回 講義 まとめ(最終レポートの作成要領の説明を含む)			
<b>【授業および学習の方法】</b> 本授業は、講義とグループワークからなる。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 理論を学ぶだけでは自己のキャリアデザインを構築することは難しい。授業で学んだ内容を自分のことに置き換えて考えることで、授業の効果をキャリア形成に最大限に活かすことを期待する。			
<b>教科書・参考書等</b> 適宜レジュメや参考資料等を配付			
<b>オフィスアワー</b> [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター(大学会館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。			

ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード: 000015) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career キャリアデザインと職業適性 Career Design and Vocational Aptitude	科目区分 主題科目	時間割 3Q火2	対象年次及び学科 1～全学共通科目
	水準・分野 B1THA	DP・提供部局 dxxG	対象学生・特定プログラムとの対応 10
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 筒井 徹也	関連授業科目		
	履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座 I 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座 II		
学習時間 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習			
<b>授業の概要</b> 本授業では、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考える学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行う。中心となる考え方は、時間軸によって好ましいものの意味(What)と意義(Why)の変化を認識しつつ、キャリアの棚卸しによって職業適性への考察を深めるというものである。また、限られた学生生活期間において、何を取捨選択するべきかの論理的な考え方についても演習問題を通してレクチャーする。			
<b>授業の目的</b> 自らのキャリアをデザインするための基本的な考え方を理解するとともに、そのステージごとにおける「人財」となっていくことを理解するための授業である。学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)、③自分を変えられるものと変えられないものを分けて認識できるスキルの獲得を目的にしている。			
<b>到達目標</b>			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①様々な事象における事実と真実を区別することができる。 ②キャリアにおける興味・適性・能力を認識し、各々を増やしていける。 ③自らの気づきを言語化し、キャリアデザインに反映することができる。 ④他者への気づきを言語化し、肯定的フィードバックを可能とする。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行う。(各回ミニレポート30%、授業への取り組み姿勢30%、最終レポート40%)			
<b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b> <b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション. 市民としての責任感と倫理観 第2回 キャリア形成に必要な自己理解と相手(地域、職業、組織)理解 第3回 人はなぜ働くのか「学生の自覚と社会人の自覚」 第4回 キャリアアンカーから深める自己理解 第5回 新旧の就職活動事情とその変化への対応 第6回 なぜ若者は短期離職してしまうのか 第7回 「会社組織」「地域社会」で活躍できる人材とは 第8回 講義 まとめ(最終レポートの作成要領の説明を含む)			
<b>【授業および学習の方法】</b> 本授業は、講義とグループワークからなる。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 理論を学ぶだけでは自己のキャリアデザインは進まない。授業で学んだ内容を自分のことに置き換えて考えることで、授業の効果をキャリア形成に最大限に活かすことを期待する。			
<b>教科書・参考書等</b> 適宜レジュメや参考資料等を配付			
<b>オフィスアワー</b> [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター(大会館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> グループワーク中心の講義では途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。			